

## 令和3年度後期 学群教育改善計画

学 群 名	事業構想学群
学 群 長 名	中田千彦

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	講義・演習とも対面形式での授業を展開しているが、止むを得ない事情で遠隔に切り替え、あるいは併用をする授業を実施することがあった。
①	理 由	コロナウィルス感染症の状況により、出席停止・自宅待機を課される学生が生じるため、遠隔での授業の部分的な実施があった。
②	課 題	価値創造デザイン学類の演習科目における、授業前後の学習の時間が他の科目群に比べて非常に多い。これは解決すべき問題というのではなく、演習系授業の自習と受講の組み合わせの特異な例として参照されるべき課題である。
②	理 由	演習の授業時間には受講生が各自で制作や調査をした内容を持ち寄ってグループディスカッションなどを行い、個々の制作などの時間は授業時間外に確保する必要があるため。
③	課 題	シラバスに従った授業運営が概ねしっかりと行われているとの記載が多くみられ授業運営上の問題は見当たらないが、コロナ禍以降の対面・遠隔の授業体系、ハイブリッドな運営についてDXを活用した新たな取り組みを模索している段階であり、効果的な活用は課題がある。
③	理 由	Webclass やその他のウェブを介した授業情報の開示や情報共有が充実していることから、学生も自身が受講している科目内容や学習の進捗管理がうまくいっている様子が推察される。また、新規の授業運営方法の採用なども積極的に行われているが、最近のDX活用についての宮城大学らしい取り組みへの挑戦の必要性も高まっている。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	コロナ禍において、宮城大学では早期に遠隔での授業対応を行い、授業を担当する教員や受講する学生、また事務局の対応においても遠隔授業での開講に関しては柔軟、かつ適切に行うことができるようになってきている。今後の科目運営上、対面授業の意義を再確認し、部分的な実施も含めた遠隔授業の取り扱い方について、さらに洗練された大学における授業運営が期待されている。
②	事業プランニング学類や地域創生学類においても同様の授業形態はあり、反転授業の採用なども進むとそのような傾向はさらに高まると考えられる。現状では講義時間を中心に学習に取り組み、各回授業のレポートや予習を授業時間外に行うことも少なくないが、演習との授業時間外での学習時間の差が大きく現れている。講義系科目などにおいても、オンデマンドの教材などを準備し、積極的に活用することで対面と遠隔の授業実施による成果の向上が期待されると考えられる。
③	大学の科目運営のIoT化が進み、それに応じたDX（デジタル・トランスフォーメーション）も発展していく可能性を示唆していると考えられる。令和3年度後半から4年度にかけて、こうしたDXに関わる文部科学省事業への申請、採択が実現していることから、本学の科目運営においても積極的にDX かに向けた取り組みを実施していくことが大いに期待されているといえる。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

コロナ感染対策を十分に施した少人数による科目運営（対面でのコミュニケーションを重視した授業など）がコロナ禍前の進め方と異なった方法で展開される場面が多くなってきている。（コミュニケーションを取るために遠隔によりゲストを招いての専門的な議論などを積極的に行うなど）

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

急速に進捗するDX化の流れの中で、宮城大学の各学群、各学類、コースの専門性や特徴を活かした科目運営の発展可能性が大いに拡大していると思われる。これらの授業開発技術や実践事例の検証などの情報を積極的に共有し、相互に授業内容の改善などを行うことができる教育・研究現場の実現に意欲的に取り組んでいきたい。